

学校法人根津育英会武蔵学園

第四次中期計画

2022 年度～2027 年度

(前半 2022 年度～2024 年度・後半 2025 年度～2027 年度)

2022 年 3 月

学校法人根津育英会武蔵学園

I 概説	1
II 試算表	3
III 新「理事長ドクトリン」	5
IV 新「学園長プラン」	9
V 部門別中期計画	13
大学部門（大学院）	13
大学部門（大学）	14
高校中学部門	16
大学部門・高校中学部門共通	17
学園部門	18

武蔵学園第四次中期計画

I 概説

本書は、学校法人根津育英会武蔵学園の2022年度から2027年度6カ年にわたる第四次中期計画を示すものである。

当該期間は、2022年4月に学園創立百周年を迎えた当学園の新世紀を画すものであり、これまで三次にわたる中期計画16年の道筋の上に立って、学園の新たな船出を期するものである。

第四次中期計画においては、2021年3月25日の第290回理事会において報告了承された、「新理事長ドクトリン」「新学園長プラン」に基づき、学園の各設置校、事務部門の教職員多数が中期計画策定のためのWG, SWGに参加し、それらの討議を踏まえて、学長、校長、事務局長が責任を持って、各設置校における教育・研究の特徴を掲げ、併せて法人部門も含めた6年間の中期計画における目標と施策を掲げることとした。

中期計画上では、前半を2022年度から2024年度まで、後半を2025年度から2027年度までとし、前半の成果等を踏まえて後半に反映させる仕組みとする。

それぞれの施策は、毎年度事業計画及び事業報告により進捗が管理されることとしている。

【学園共通の戦略事項】

以下に、第四次中期計画における学園共通の戦略事項として、次の6項を掲げる。

1. リベラルアーツ&サイエンス教育の一層の深化
2. 世界に雄飛し人類の課題解決に資するリーダーの育成
3. 東西文化の架け橋となる研究教育の推進
4. 特色ある大学院への変革
5. 学園内高大連携の強化
6. 武蔵らしいICT/AI教育の強化

【経営との整合】

また、第三次中期計画に引き続き、中期計画と本計画立案の前提となった「新学園長プラン」の求める「経営との整合」を実現するために以下の方針で臨むこととする。

1. 大学の収容定員は4千人未満を維持し、それに適合した諸施策を実現すること。

2. 計画期間中の経常収支黒字を極力維持すること。
3. 毎年度の教育活動収支の均衡を維持すること。
4. リソース配分見直しと効率化を図り、人件費総額の抑制を図ること。

【第四次中期計画の運用について】

本計画附表（部門別中期計画）において「施策」欄に記載されている項目については、担当の部門が毎年度の事業計画において、当該年度に実施する内容を明確化する。毎年度の事業計画においては、中期計画における進捗状況を管理する。

以上

学園収支状況・試算

Ⅱ 試算表

単位:億円

	第三次中期(67年)計画					第四次中期(67年)計画						
	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 補正(案)	2022年度 試算	2023年度 試算	2024年度 試算	2025年度 試算	2026年度 試算	2027年度 試算
1	59.5	63.0	62.8	61.5	59.4	58.8	60.4	62.2	64.7	65.5	65.6	65.6
2	3.2	3.4	3.5	3.4	2.9	3.3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
3	1.4	1.7	1.7	1.9	2.0	1.4	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
4	4.7	4.6	4.8	5.4	7.8	8.1	5.3	5.3	4.6	4.6	4.6	4.6
5	0.4	0.3	0.5	0.5	0.5	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
6	1.5	1.5	2.7	2.1	1.6	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
7	70.8	74.6	75.9	74.8	74.0	73.4	70.9	72.7	74.5	75.4	75.4	75.5
8	37.6	38.0	39.8	39.5	39.0	39.2	42.1	42.1	42.1	42.1	42.1	41.8
9	17.5	18.5	18.6	18.3	18.7	20.1	20.1	20.1	20.1	20.1	20.1	20.1
10	4.2	4.4	4.7	4.9	5.7	6.2	6.8	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
11	7.9	8.0	8.3	7.9	7.9	8.0	8.4	8.8	9.0	9.0	9.0	7.8
12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	67.1	68.8	71.4	68.5	71.2	73.5	77.4	76.2	76.4	76.4	76.4	74.9
14	3.6	5.8	4.5	6.3	2.8	△ 0.1	△ 6.5	△ 3.5	△ 1.9	△ 1.1	△ 1.0	0.5
15	2.6	2.9	3.1	3.3	4.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	2.6	2.9	3.1	3.3	4.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
21	2.6	2.9	3.1	3.3	4.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
22	6.2	8.7	7.6	9.6	6.9	2.4	△ 4.0	△ 1.0	0.6	1.4	1.5	3.0
23	0.0	0.1	0.0	1.2	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24	1.9	1.6	0.6	0.4	1.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
25	1.9	1.6	0.6	1.6	1.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
26	0.5	0.5	2.0	0.4	0.7	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
27	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
28	0.5	0.5	2.0	0.4	1.0	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
29	1.5	1.1	△ 1.5	1.2	0.5	1.7	△ 0.5	△ 0.3	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2
30	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
31	7.7	9.7	6.2	10.8	7.4	3.1	△ 5.6	△ 2.3	△ 0.6	0.3	0.4	1.8
32	△ 6.1	△ 4.1	△ 12.7	△ 14.8	△ 2.7	△ 11.9	0.3	△ 4.5	△ 0.5	△ 0.6	△ 0.5	△ 1.0
33	1.6	5.6	△ 6.5	△ 4.0	4.7	△ 8.8	△ 5.2	△ 6.8	△ 1.0	△ 0.3	△ 0.1	0.8
34	18.7	20.3	25.9	19.4	15.4	20.0	11.2	6.0	△ 0.8	△ 1.8	△ 2.1	△ 2.2
35	20.3	25.9	19.4	15.4	20.0	11.2	6.0	△ 0.8	△ 1.8	△ 2.1	△ 2.2	△ 1.4
(参考)												
36	75.3	79.1	79.6	79.7	79.6	78.2	73.4	75.2	77.0	77.9	77.9	78.0
37	67.6	69.4	73.4	68.9	72.2	75.1	79.0	77.5	77.6	77.6	77.6	76.1

Ⅲ 新「理事長ドクトリン」

「世界の多様な人々と共に、人類の課題解決にリーダーシップを
発揮する、知性と教養ある人物を育てる学校」を目標とする

～これからの百年に向かって、武蔵学園の経営方針～

理事長 根津 公一

1. 世界の動き、日本の状況をどう認識するか

戦後、我が国が安定的な高度成長を遂げていた時代には、私立学校というものは一般に社会の動向にとらわれることなく、自ら信ずるところの教育を貫いて行けば良いとされてきました。しかし、世界の動き、日本の状況はもはや武蔵が「変わらない」ことを許してはくれなくなってきたと思います。

1.1 グローバル化と世界の人口増

今から約 30 年前、東西冷戦の終結と共に、地球規模での貿易・金融と人的交流の拡大が起き、さらに情報技術の普及により情報の交流が急激に拡大しました。現在の世界は「国家」という概念を超えた、いわゆるボーダーレス化が、経済、政治、文化の様々な分野で一層進んでいます。グローバル化とは、地球の国々に住む多様な人々の間が近くなり、お互いに影響を及ぼし合うようになることです。私達が教育している、学生・生徒は、そのグローバル化、ボーダーレス化が進み、飛躍的な人口増とそれに伴う環境変化等多くの解決すべき課題に直面する地球の市民として、21 世紀の世界に出て行くこととなります。100 年前、日本の教育界がまだ、殆ど「世界」に目を向けていなかった頃に「東西文化の融合を担う人物」「世界に雄飛するにたえる人物」を育てることを掲げた武蔵だからこそ、グローバル化の進む世界にふさわしい人物を育てて行かなければならないと思います。

また、世界の人々がより近くなる時、学園に問われるのは世界的視野の重要性です。これからは、私たちの日々の教育研究の営みを、地球規模の視野を持って評価し、世界に向けて発信する姿勢を持ちたいと思います。

1.2 日本の人口減少、少子高齢化

一方で、我が国は今、未曾有の少子高齢社会を迎えようとしています。そのことは、私学経営をきわめて厳しい状況に追い詰めています。もはや identity の明確でない私学は、生き残ることは出来ません。それだけではなく、少子高齢化は、私達が社会

に送り出そうとする、学生・生徒に求められる能力の質にも大きな影響を及ぼしています。人口の減少に伴う国力の低下を止めるものは、教育によってこれからの世代の一人一人の資質を磨くこと、量の低下を質の向上によって補うことのほかにありません。武蔵は、このような資質能力の高い、リーダーシップを持つ人物を育てる教育機関の先頭に立っていきたいと考えます。

1.3 あたらしい東西問題

21世紀に入って、中国、韓国、ベトナム、インドをはじめとするアジア諸国の台頭は目覚ましいものがあります。これからの数十年は、長い歴史と文化の伝統を持ちながら新しく経済力をつけてきた東洋諸国の文化と、19世紀から近代化を成し遂げてきた西洋の資本主義諸国の文化との拮抗と競争の時代となることでしょう。その中にあって、日本は地理的に東洋の一角を占め長い歴史を持つ東洋文化の一員に連なりながらも、成熟した資本主義国として西洋とも価値観を共有することのできる稀有な国として、両者の架け橋となり、新しい意味での「東西文化融合」を図る責務を負っていると考えます。

1.4 情報技術の発達と教育への活用

2020年突然世界を席卷した、新型コロナウイルスによるパンデミックは、図らずも新しい情報技術の教育の現場への導入、応用を促進することになりました。その中にあって武蔵は、大学においても、高校中学においても、日本の多くの教育機関に比較し、積極的に情報技術の導入を図った学校の一つではなかったかと思えます。

しかし、目を将来に転じるならば、非常の際の対応としての情報技術の活用にとどまらず、人間とAIとの役割分担を図り、武蔵百年の理想である「自ら調べ自ら考える」に基いた、武蔵らしい情報技術活用の方途を探り、これを社会に発信していくことを、喫緊の課題にしなければならないと考えます。

大学について言えば、もはや大学は同一世代人口の半数が行く教育機関となろうとしています。今後はいわゆる大学院大学に限らず、いろいろな形での Graduate school が社会の指導層を養成していくことになるでしょう。その意味で、大学院の充実は学園全体にとってこれから取り組むべき大きな課題の一つです。そして、大学を出て直接社会に就職する者には、大学がどのような「社会人に必要な知的基盤」を与えることが出来るかが、課題となります。

高校中学についても、大学への進学実績ばかりでなく、将来成人した後、変化し流動化する社会をたくましく生き抜く「基礎的な教養と柔軟で開かれた知性」がより一層問われることとなります。ここでも武蔵が100年前に掲げた「自ら調べ自ら考える人物」の育成こそ、現在の社会に問われる所以であると思う次第です。

2. 学園の identity を何に求めるか

武蔵学園は、これまで少人数教育によって質の高さを維持していることが、他との差別化の要因でした。「自ら調べ自ら考える人物」を育てるために、大学の「ゼミの武蔵」を実践してきた成果、高校中学の「本物に出会う教育」は、誇ってよいことです。

また、この少人数教育の伝統は、今後も大学・高校中学とも変える必要はないと思います。

しかし、現在の競争環境の中で、「私学が少人数教育をしていること」だけでは identity としては明らかに不足であると言わざるを得ません。これまでの「自ら調べ自ら考える人物」育成の成果の上に立って、「東西文化融合の我が民族理想を遂行し得べき人物」

「世界に雄飛するにたえる人物」を育てることこそが、今日の時代に武蔵が問われるべき identity であると考えます。

日本の文化は古来世界に開かれ、この国には、広く世界から様々な思想文化の潮が流れ込み、それらが融け合って、世界に類を見ない独自の文明を築き上げました。そのようなわが国文明の在り方を自らのよって立つ基盤としてより深く識り、不朽の三理想の下、「生きた教養」を持ち、世界の人々によく自己の意とするところを伝え、また、異なる環境、文化、価値観を持った多様な人々の声によく耳を傾けられる、指導力ある人物を育てる学園でありたいと思います。

よって、「世界の多様な人々と共に、人類の課題解決にリーダーシップを発揮する、知性と教養ある人物を育てる学校」を目標とし、これからの 100 年に向かって、武蔵学園の経営を進めて行きます。

以上

IV 新「学園長プラン」

学園長 池田 康夫

はじめに

今般、根津理事長より新「理事長ドクトリン」が示されました。以下は、理事長の方針を受けて、その実現を図るために、私が学園の校務統括者として、武蔵大学、武蔵高校中学において、学園創立百周年となる 2022（令和 4）年 4 月からの 6 年間にめざすべきビジョンを示し、実行すべき課題を挙げて大学、高校中学に検討と具体化を求めるものです。

1. 学園全体でめざすべきビジョン

学園創立百周年を超え、次の 100 年に向けて、武蔵学園は、大学・高中とも、

「世界に開かれたリベラルアーツ&サイエンスの学園」となることをめざす。

中/高/大/院に一貫したシームレスな、「世界とつながる」教育コースを創設する。

2. ビジョンの具体化に向けて

2.1 背景

理事長ドクトリンの中で、今般新たに示された以下の認識は、私が特に強く共感し、このプランにおいても、具体化を図りたいと考えているものです。

1.2 日本の人口減少、少子高齢化

一方で、我が国は今、未曾有の少子高齢社会を迎えようとしています。そのことは、私学経営をきわめて厳しい状況に追い詰めています。もはや identity の明確でない私学は、生き残ることは出来ません。それだけではなく、少子高齢化は、私達が社会に送り出そうとする、学生・生徒に求められる能力の質にも大きな影響を及ぼしています。人口の減少に伴う国力の低下を止めるものは、教育によってこれからの世代の一人一人の資質を磨くこと、量の低下を質の向上によって補うことのほかにありません。武蔵は、このような資質能力の高い、リーダーシップを持つ人物を育てる教育機関の先頭に立っていきたいと考えます。

1.3 あたらしい東西問題

21 世紀に入って、中国、韓国、ベトナム、インドをはじめとするアジア諸国の台頭は目覚ましいものがあります。これからの数十年は、長い歴史と文化の伝統を持ちながら新しく経済力をつけてきた東洋諸国の文化と、19 世紀から近代化を成し遂げてきた西洋の資本主義諸国の文化との拮抗と競争の時代となることでしょう。その中であって、日本は地理的に東洋の一角を占め長い歴史を持つ東洋文化の一員に連なりながらも、成熟した資本主義国として西洋とも価値観を共有することのできる稀有な国として、両者の架け橋となり、新しい意味での「東西文化融合」を図る責務を負っていると考えます。

2.2 何故リベラルアーツ&サイエンス教育なのか

武蔵大学、武蔵高校中学は、三理想の下、旧制七年制の武蔵高等学校をルーツとして創設されました。さらに、学園創立 50 周年記念事業における武蔵大学の学部増設、20 世紀末武蔵高中四クラス一貫化の際の「武蔵という枠にとらわれない幅広いリベラルアーツ&サイエンスの中で、創造性を高める教育をめざす」等折々の施策においても、武蔵の志向するところは、リベラルアーツ&サイエンスの担い手たる学園でした。2005（平成 17）年に策定された武蔵学園将来構想においてもその考え方は一貫しています。

リベラルアーツ&サイエンス教育とは、文理の壁や科目の別を超えて、人間として必要な創造力、想像力、論理的思考力、判断力、応用力などを養うために、自然、人文、社会に及ぶ基礎的な学芸と科学とを学び、深い知と教養に至ることです。

日本の戦後教育制度では、リベラルアーツ&サイエンス教育の担い手が不明確なところがあり、そのことは、地球規模での交流が進む世界の教育状況に、我が国教育機関がアクセスする上で、問題の一つともなっています。

旧制七年制高等学校以来のリベラルアーツ&サイエンス教育のルーツを再確認し、その現代における姿として、再度リベラルアーツ&サイエンス教育によって世界とつながることを掲げ、少数教育の伝統を維持しつつ、大学、高中とも世界の学校に伍して、一流の国際的な評価を得られる学校としていくことを目標としたいと思います。

2.3 リベラルアーツ&サイエンス教育の方向

専門的な教育研究の場である大学院を一層充実するとともに、大学、高校中学が行う総合的なリベラルアーツ&サイエンス教育をリードするような研究分野の開拓をめざします。「東西文化融合」の理想を掲げ大学院の改革を実現してください。

武蔵大学では、卒業生の大半が社会に出て就職しているという現実を踏まえ、戦後の大学制度にあった一般教育と専門教育の別にこだわることなく、社会に出た卒業生にとって、必要で実となる総合的な知と教養の体系としてのリベラルアーツ&サイエンスを、柔軟に身につけていくことの出来るような大学のありようを目指して、所要の改革を計画してください。

これまでの専門教育の体系だけにこだわらず、文理の壁を越えた 21 世紀の学問の在り方を見据えて、新しい学問の体系を再構築することを検討してください。

また、少数教育の伝統を維持し、上記を目指すためには、情報コミュニケーション技術を駆使した教育手

段の積極的活用など、新しい教育手法にも大胆に取り組む必要があることを付言します。

一方、少数ではあっても、外国語で授業を受け、海外大学の単位、学位を取得し、大学院、就中海外の大学院に進むような質の高い学生を育てていくことも重要な課題です。武蔵大学の声価をさらに高めるため、「芯となる新しい層を育てる」仕組みの構築に取り組んでください。

高校中学においては、旧制七年制高等学校が、戦後制度における中等教育と大学一般教育課程を併せたものであった事実を顧みて、諸般の施策を検討していきたいと思えます。

いわゆるスタンダードな中等教育とは異なる、若年からのリベラルアーツ&サイエンス教育の要素は、今日も「武蔵らしい教育」の中に潜在しているものと思えます。それらを活かし、生徒が志望する大学へ進めるように、支援の仕組みの構築に取り組んでください。

国内大学はもちろん、海外大学への進学、さらには「海外大学院への進学」につながる教育の仕組みを構築することも目指して、所要の改革を計画してください。

武蔵高校中学は、生徒が早期に志を立てて、進路目標を定め、自ら勉学に励み、志望の道に進めるために、きめ細かく必要なサポートを行える学校でありたいと思えます。

2.4 高大連携、共通課題

大学における「芯となる新しい層を育てる仕組み」、高校中学における「海外大学・大学院への進学につながる教育の仕組み」は、学園共通の課題として高大連携して取り組むべきものです。

具体的には、武蔵高校中学から海外を目指す生徒が、武蔵大学の提供する国際化教育を活用し、できれば通常の学齢よりも早く、海外大学院に進める経路を検討してください。

2.5 経営との整合

このプランの検討にあたっては、教育研究の範囲にとどまらず、学園経営との整合を図ることが必要です。具体的には、

- 学生、生徒が求める進路を支援し、学園の価値を高めるための諸施策
- 良質な入学者を確保し、高質な教育を実現するための諸施策
- 学園の財務体質を向上させ、収益力を高めるための諸施策
- 学園の教職員の処遇向上に資する諸施策

等と、このプランが矛盾なく整合していくように、事務局各部門とも緊密に連携して検討を進めていくことを求めます。

3. 実行すべき課題

今後概ね第四次中期計画の前後に検討し実現を図るべき課題を別表の通り掲げます。

実施時期の「前半」は、第四次中期計画策定中に検討し、第四次中期計画前半（2022年4月から2025年3月まで）に実現すべき課題とします。

実施時期の「後半」は、第四次中期計画前半までに検討し、第四次中期計画後半（2025年4月から2028年3月まで）に実現すべき課題とします。

実施時期の「検討課題」は、第四次中期計画中に検討すべき課題とします。

以上

V 部門別中期計画

大学部門（大学院）

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
U41111	定員充足	アジア出身の留学生の組織的招致	前半	日本語によるカリキュラムを履修する大学院生の誘致
U41112				海外からの大学院生(海外出身)の日本語による修士論文作成サポート(個別指導・課外)
U41113				学部研究生制度と本学大学院への進学を連動させる仕組みづくり
U41211	リベラルアーツ&サイエンス教育をリードする研究分野の開拓と充実	東洋社会・文化研究の推進と大学リベラルアーツ&サイエンス教育との連携(人文社会系)	後半	ジェンダー研究の推進
U41212				江古田三大学連携芸術文化プログラムの実施
U41213				文化財資源探索プログラムの実施
U41221				イスラム文化研究の強化
U41231		根津美術館との連携	後半	「東西美術交流」をテーマとした大学院講座の開設
U41241		日本で起業・就職するアジア出身の留学生の養成(経済系)	前半	海外からの留学生(院生)誘致 (1)高度職業人コースの再編 (2)日本市場での「起業」に特化したMBAコースの新設
U41242				経済学研究科と経済学部との連携の強化
U41251				国際教養系大学院の展開
U41311	世界・社会に開かれた大学院の形成	国籍を問わない社会人修士の育成	前半	世界・社会に開かれた新しいカリキュラムの編成
U41312				学内外の学部生の大学院進学促進

大学部門（大学）

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
U42111	広い識見と行動力を持つグローバルリーダーの養成	全学的なリーダーシップ教育の推進	前半	大学院の新カリキュラムと連携したプログラムの開発
U42112				PDPで取得できる学士号の種類拡大の検討
U42121		経済学研究科・人文科学研究科との連携	前半	学部大学院一貫教育の検討・拡充と進学希望学生の確保
U42131		実践的体験の機会の創出	前半	新設グローバル2科目の運用及び国際資格取得支援の定着
U42211	リベラルアーツ&サイエンス教育の充実	全学的な仮称「リベラルアーツ&サイエンス教育センター」の設立	前半	「リベラルアーツ&サイエンス教育センター」の設立
U42212				センターを円滑に運用するための体制の構築
U42221		多言語教育の強化と充実	後半	4年型語学コースによるマルチリンガル習得者の育成（新たな外国語の検討）
U42222				全学的コーチング制度の導入
U42231		学部教育の見直しと再編	後半	2022年度カリキュラムの全学的検証
U42241		大学リベラルアーツ&サイエンス教育と大学院東洋社会文化研究の拠点（人文社会系大学院との連携）	後半	大学/大学院連携科目の導入
U42251		リーダーシップのあるジェネラリストの養成	後半	リベラルアーツ&サイエンス教育センター開講科目の活用と正課外指導の充実
U42261		理系大学との連携	後半	リベラルアーツ&サイエンス教育センター設置科目、IFPサイエンス等の相互連携の検討
U42271		世界・社会に開かれた社会人教育	後半	「履修証明制度」導入可能性の検討
U42311		グローバル教育の充実強化	名誉博士号授与制度の導入	前半
U42321	PDPからLSE大学院へのチャンネル確立		前半	LSE大学院へ進学のための環境整備
U42322				BSc Economics学位取得を可能にする体制の検討
U42323				短期UoL訪問の実施
U42331	パラレル・ディグリー・プログラムの充実		後半	協定校を中心とした「ダブル・ディグリー」提携の可能性の模索
U42411	データサイエンス教育の推進	GDSコースの強化及び他学部等との連携	前半	ICPSR等（英語表記の国際データ）の利用を前提とした新しい教育プログラムの開発と試行
U42412		GDSコースの強化及び他学部等との連携	前半	企業・研究機関等との連携による授業実施・インターン派遣の強化
U42421		全学的なデータサイエンス教育の展開	前半	2026年のカリキュラム改編に向け、総合科目を改編し「教養データサイエンス(仮)」の新グループを設定

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
U42422	データサイエンス教育の推進	全学的なデータサイエンス教育の展開	前半	統計検定及び統計検定データサイエンスの試験合格者への褒賞金制度の導入
U42423				文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」への認定申請
U42511	武蔵型ICT/AI教育モデルの導入	ICTやAI技術を活用した教育の推進	前半	2026年度のカリキュラム改編に向け、総合科目を改編し「技術と社会変革」等の新グループを設定
U42512				BYOD (Bring Your Own Device) に対応する授業履修環境の整備
U42521		海外を含む他大学とのオンライン連携	後半	海外大学や他大学とのオンライン型連携授業を実施
U42531		オープンコースウェアとの連携	後半	外部コンテンツの授業利用への検討
U42532				オンライン授業の充実と強化
U42611	国際的競争力のある独創的研究の推進	海外との研究プロジェクトの推進	前半	海外の研究者と協力して行うプロジェクトの実施
U42621		研究支援制度の強化	前半	総合研究所の見直しと、研究支援体制の再構築
U42711	少子化と国際化を踏まえた入試制度の見直し	多様な可能性を持つ学生の受入れ体制の確立	前半	総合型選抜入試等の全学的な見直し
U42712		多様な可能性を持つ学生の受入れ体制の確立	前半	多様な受験生に配慮した環境の整備
U42713				国際教養学部で9月入学を検討
U42811	学内組織の再編統合による運営の強化	委員会組織の効率的運用	前半	委員会等についての継続的な見直し
U42821		教授会運用の効率化	前半	オンラインを活用した議題説明や情報共有の検討と運用
U42841		総合研究所の見直しと再編	前半	総合研究所の改編と運営体制の構築
U42861		教職課程の見直し	前半	2024年度第四次中期計面前半までに再評価を実施

高校中学部門

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
H43111	教科教育・学問の推進（守破離の段階を踏まえた武蔵らしい学びの確立）	グランドデザインを踏まえたカリキュラム体系の構築	前半	各科カリキュラムデザインに基づく、6年間の全教科間における時系列的整合性の確保
H43121			前半	グランドデザイン・各科カリキュラムデザインを踏まえた武蔵型教育ICT活用モデルの開発
H43122				全学年への生徒一人1台端末導入と必要となる環境整備
H43131	教科教育・学問の推進（守破離の段階を踏まえた武蔵らしい学びの確立）	グランドデザインを踏まえたカリキュラム体系の構築	後半	情報センターとしての図書館再整備の検討
H43211	キャリア教育の推進（入学から卒業までを見据えた進路希望の実現）	入学試験のありかたの見直し	後半	グランドデザイン・カリキュラムデザインに基づく求める生徒像の明確化
H43212				
H43221		進路希望を実現させるための取り組みの充実	前半	学習到達レベルに合わせた補講・講習会の拡充
H43222			前半	キャリアガイダンスの拡充
H43223				大学・研究室の訪問プログラムの実施
H43231				学習支援員制度の拡充
H43241		中高を一貫した、海外大学進学経路の設計	前半	海外大学出願サポート体制の強化
H43251			後半	海外の学習・研究に触れる機会の拡充
H43261			前半	国際部との連携強化
H43311		グローバル市民教育の推進（グローバル教育の量的拡大と質的充実）	広い世界に目を向けさせる取り組みの充実	前半
H43312				
H43331	東西文化の架け橋となる人材育成を見据えた東アジア国際交流の推進		前半	ICTの活用も含めた国外研修・国際交流の推進・充実
H43341	世界の多様性を学ぶグローバル市民教育プログラムの開発・実践		前半	異文化交流の体験機会の充足
H43411	リーダーシップ教育の推進（守破離の段階を踏まえた6年間のリーダー教育）	公共心や人権感覚を育てる教育の推進	前半	人権教育・教科道徳の拡充
H43421		多様な他者と協働する自主性・主体性の涵養	前半	校友会活動の管理・支援体制の整備

大学部門・高校中学部門共通

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
C44111	高大連携科目の充実と強化	IFPサイエンス科目の導入	前半	大学総合科目/IFP科目としてPure Mathematics, Statistics for STEMs, Business & Managementの三科目の開講と 高大連携IFP科目として高校生への開放
C44112				IFP科目として「生物学」「化学」の開講と高大連携IFP科目として高校生への開放
C44121		語学・一般教養科目などのさらなる開放	前半	オンライン授業の効率的運営
C44122				学校設定科目による増加単位の活用のための大学の各種科目の開放
C44131	高大連携科目の充実と強化	データサイエンス教育の展開	前半	データサイエンス教育の大学・高中を含む学園全体での共有
C44141		SDGs諸目標への可能な貢献	前半	①教育課程上でのSDGs関連科目の積極的導入と検証 (例：SDGsに関連するトピック、関連授業の導入及び実施や受講の奨励) ②SDGsに関連する教育研究活動成果の社会発信奨励(例：公開講座でのSDGs関連講座の開講促進) ③SDGsに貢献しうる研究の推進(例：総研プロジェクト、科研費プロジェクトにおける関連研究の積極的推進)

学園部門

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
G45111	第四次中期計画を支える事務部門ポテンシャルの向上	職員資質向上による教職協働の実現－学校経営/運営に参画する企画力、あるいは高度の専門性を有する職種能力の開発	前半	職員が身に着けるべきスキルのカタログ化
G45112				管理職研修の充実と業務改善が促進される土壌づくり
G45113				専門的職員のさらなる活用
G45121			教員・職員の役割分担見直し	前半
G45211	第四次中期計画を支える公正清新な人事労務制度の構築	(大学) 教員評価の見直しと深化	後半	(大学) 教員評価制度の導入と処遇への反映
G45221		(高中) 教員評価制度の導入	前半	(高中) 教員評価制度の導入と処遇への反映の検討
G45231		多様な雇用形態の活用と適正な運用	前半	(学園) 多様な雇用形態による人的リソース活用の検証と適正化
G45232		多様な雇用形態の活用と適正な運用	前半	(大学) 多様な雇用形態による教員活用
G45233				(高中) 教員の働き方改革を尊重し、文部科学省施策の「チーム学校」の考え方による新しい職種等の導入を検討する
G45311	第四次中期計画を支える施設設備のポテンシャルの向上	武蔵型ICT/AI教育モデルを支える情報設備の更新・整備	前半	学園内外のネットワーク環境の整備
G45312				教育方法に対応した授業支援インフラの整備
G45313				オンラインツールの活用とセキュリティの確保
G45321	第四次中期計画に対応した施設整備		後半	BCP（事業継続計画）を考慮した学内情報インフラの再配置及び計画的な情報通信インフラの更新と増強
G45322				(大学) 学生の動線、緊急時、ユニバーサルデザインを考慮した施設機能の再配備
G45323				高中教室棟のバリアフリー整備の検討
G45411	持続可能な社会への対応	SDGs諸目標への学園として可能な貢献	前半	学園の諸活動を洗い出し、SDGs項目との対応付けを行ったうえで、貢献可能な項目の施策を実行
G45412				リーダーシップ教育の一環としてSDGsに関する理解の深化
G45421				環境衛生対策や災害対策とともに、省資源、省エネルギーに対応した施設整備

管理番号	課題	課題の詳細	実施時期	施策
G45431	持続可能な社会への対応	ダイバーシティに対応する体制の整備	前半	ダイバーシティ推進のための体制の整備
G45432				ダイバーシティに関する学園関係者への学習機会の提供
G45433				ダイバーシティに関する意見や要望を日常的に大学を含む学園全体に届けることができる仕組みの構築
G45434				練馬区等の自治体、外部団体、他校との連携体制の構築
G45435				ダイバーシティ推進活動を行う学生・生徒との連携
G45511	学園の経営方針を体现する新たな戦略の展開	新設置校の調査と提案	検討課題	学校教育法第134条等を活用した国際スクールの検討、女子校との連携・併設の検討等
G45521	効率的なカリキュラム運用	カリキュラム編成においては、教育の質の向上とともに、費用対効果の視点を入れる	前半	大学では次回のカリキュラム再編、高中ではグランドデザインを具現化する中で効率的運用を実施
G45531	年代を超えた知の基盤づくり	在校生から卒業生までが参加できるセミナー方式の教育の場の創出	検討課題	「学び」のシンボルとしてオール武蔵での教育の場を提供

